
役

euReka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

役

【Zマーク】

N7312V

【作者名】

eureka

【あらすじ】

君と僕は夏の途中で迷子になつた。そして僕たちは愛しあう方法を知らなかつた。

夏に向かいながら溶けていく、君は真っ白な後悔のようだと僕は思つた。

「ねえ、なんで砂漠の真ん中でアイスクリームなんか売ってるの? きっと誰かを待つてみたいのだろうね。」

「ふうん、あなたって寂しい人なのね。バニラアイスちょうどいい」「うちばバニラアイスしかないけどね。」

「それでいいわ。選べないことは素敵ことなのよ」

君はビー チパラソルの陰に腰を下ろすと、脱皮する虫のようにモゾモゾと服を脱いだ。

「ああそれからあなたの分のアイスもね。私と二人分ね。お願ひね」君つて柔らかい暴力みたいだな。

「つまりあなたは、傷ついていたいだけなのよ。それよりアイスまだなの?」

僕は二つのコーンにバニラアイスを盛ると、砂の上に寝そべるビキニ姿の君に手渡した。

「一つはあなたの分よ。はい」

僕はアイスを売る方の役だからいらない。買ったアイスをどうするかは、君の自由だけど。

「役ねえ。それは考えてなかつたわ」

そう言うと君は右手に持った方のアイスクリームを、もの言わぬ砂漠に向かつて思い切り投げた。

「誰かを拒否する。それで何かを守つたつもりになれるのよね」

僕は何も言わず、アイスクリームを詰めた冷凍箱の脇に寝転んだ。今日は店じまいだ。

「おやすみ。あなたを困らせる気はなかつたの。おやすみ」

僕は夢の中で、砂漠に帰つていく君を見送った。本当はどこにも、帰る場所なんかないんじゃないのか?

「そして夜が明け、次の日がやってきました。私はビキーを剥ぎ取り、真っ裸であなたの前に現れました。私は昨日と同じ調子で、あなたに一人分のバニラアイスを注文しました」

朝、夢の終わりに現れた君は何やら深刻な問題を抱えているようだった。君の黒い髪の毛が、何かを諦めたようにポロポロと抜け落ちていく。君は病気か？ もう死んでしまうのか？

「そのうちまゆ毛も、陰毛だってすべて抜け落ちるわ。あなたはただ自分の役を演じていればいいのよ。ほら、もう体の皮膚も溶け始めているでしょ。だから早くアイス作つてよと私がせかすと、あなたは青ざめた顔をしながらコーンにアイスクリームを盛った」

一つは僕の分でいいんだな。分かつたから、君はもう何も言わなくていいから。

「今日ははずいぶん優しいのね。だけどもう肺も、心臓も胃も腸も、筋肉も子宮も唇も溶けて駄目になつてしまふの。最後にセックスしたかつたな、赤ちゃんうみたかつたな、でもその子が挫折して、変態野郎になつたら嫌」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7312v/>

役

2011年10月5日13時03分発行